

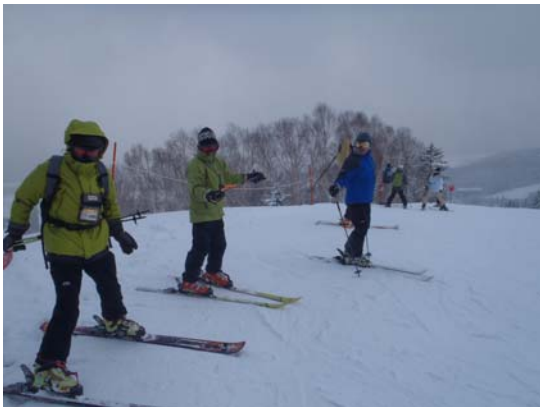
恒例の正月 山スキー三昧

(平成25(2013)年1月4日(金)～6日(日) トナムスキー場)

参加者 L: 藤木(た)、SL 藤木(晴)、澤田、東海林、近藤、山岸、西田(芳)、西田(昌)、安藤、永宮、相馬(1/4 夕方～)

1月4日(金) 定番のゲレンデスキーを楽しむ

先行者10名はトナムスキー場に着き、投宿のビレッジ・アルファに荷物を置き、ザック無しでゲレンデスキーを楽しんだ。今回もリーダーとサブリーダーの尽力で格安で宿泊できることに感謝したい。



今日の参加者は全員が55歳以上でシルバー券(4時間券 2,800円)を購入して広いゲレンデに飛び出す。風が強く、寒い。北海道の内陸地区は寒さが尋常でない。



普段はつけない目出し帽を着用し、寒さ対策をする。手足の指が寒さで痛い。相当な寒さだ。背中にリュックザックがなく、快適に滑走できる。いつもリュックザックを背負ってのすべりとは大違いでうまくなったような気がする滑りだ。

4時間券の時間も残り少なくなって、「新雪の中のもう1回のスキー滑降」が災いした。

Nさんが転倒して、両手の肘から先がしびれるという。ヘルメットをしていて頭を打ったほかに怪我はないようだ。低体温症ではないかとスキー場の救護室でぬるま湯に手をつけるがしびれがとれない。

宿泊場所に帰ってきてから、様子を見たが、少しでも指がほかのところに触れると痛いという。気分も悪くなく、吐き気もしない。一晩、様子をみようということになった。

ほかの元気なメンバーはいつもの大宴会である。リーダーとNさん女性2人によるお手製の食事もおいしい。夜は後発隊のSさんを加え、11人で夜を楽しむ。あと1週間で誕生日を迎えるNさんの67歳の誕生祝いにケーキにろうそくをたて、Nさんが火を吹き消す。



そのケーキをおいしくいただいた。ワイン

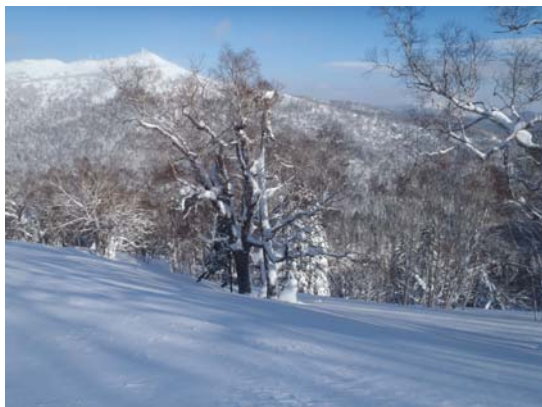
もまたたく間に無くなってしまった。

1月5日（土）トマムスキー場裏探索 沢まで下りて登り返し1時間。

一晩寝てもNさんの手のしびれは取れない。リーダーとYさん、Aさんが2台に分乗し、付き添い、Nさんを車とともに自宅まで送り届け、病院に行き、診察を受けたが、精密検査が必要だということで入院することになった。大事に至らないよう、そして早期の復帰を祈りたい。



残った7人のメンバーは、トマムの広いスキー場でゲレンデスキーを数本楽しんでから、山屋らしくスキー場裏の「金の沢川」までの深雪の中、約100mを下りた。



山スキーにシールをつけて登り返す。当初は左岸を登るが、地形図を確認して右岸寄りだとゲレンデに出られることを確認し、

約1時間のラッセルで元にとどり着いた。それにしても寒い。風が出てきたら間違いなく、マイナス20度以下だろう。久々の寒さだ。



夜は昨晚に引き続き、おいしい食事とアルコールで疲れを癒した。



1月6日（日） 狩勝山（984.9m） 810mで撤退



3日目は狩勝山登山である。

初めの計画は、落合山だったが、道路事情を考慮し、以前登山したことのある狩勝山に変更した。



天気は曇りの予報だが、現地に行くと風が強い。ときどき小雪がちらつく。

地形図とコンパスを確認しながら登る。



持参した簡易気温計はマイナス14度を指していた。風が強く、810m地点に来た

ところで、リーダー判断で頂上へ行くことをあきらめ、折り返した。

下山口近くにいつものインディアンツェルトを設営し、昼食タイム。



そこから下山口まで3分もかからずに下山終了。登山開始は8時50分、810m地点10時15分、下山途中にて大休憩後、下山終了は11時30分だった。

帰宅途中の「沙流川温泉」に入浴して、帰途についた。参加したみなさん、お疲れ様でした。とくに往復の車の運転にお礼申し上げます。ありがとうございました。

(記録 澤田)